

2025年3月2日 発行

第32号

工務部会
こうむ
NEWS

JR東労組(東日本旅客鉄道労働組合)

工務部会

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1

代々木総合事務所5階

NTT 03-5315-0941 JR 058-4112

発行人 杉本博輝 発行 編集委員会

「命を守ろう！」工務安全集会2026

第3セッション

**会社姿勢に怒りをもち、
安全文化と安全哲学の再確立を目指す
について、組合員からの特徴的な意見です。**

- ・ 会社の対策は対外的なパフォーマンスのようにしか感じない。
- ・ 起こした事象に対して、ルールを破ったから、そのルールを守るためのルールを作るといふように真の対策となっていない。
- ・ この間の大規模輸送障害に関して、社長自ら人為的ミスと切り縮めるのはどうなのか？
- ・ 年に1回行っていた直轄検査が、モニタリング検査が導入したことにより3年に1回となったが、年4回走行する検測車からのデータが天候によって左右されるため、信憑性に欠ける。
- ・ 信頼性の欠けるモニタリング検査で、不具合が見つかったら現場に確認しなければいけないため、より業務に負担がかかっている。
- ・ 架線は生き物、温度変化によって伸び縮みする。その状態変化をどのように抑えて見るべきかが重要。モニタリングだけでなく、現場に行って設備を見ることも必要。
- ・ 保線では、本社主導でレール表面の傷の状態を画像や、軌道材料モニタリングの画像をもとにAIに学習させ自動判定することをやっているが、溶接痕だけでも傷と判断してしまうため、データ解析が大変であるとともに、その画像を現場で判断しろとなった時にどうすべきか不安。



**安全で安心して働ける職場を未来に残すため
にJR東労組に結集しよう！！**